

駅前の自転車預かりの話

あるとき、駅前の自転車預かりに、ひとりのおじいさんが来て、「この自転車預かってくれるか。二、三時間したらもどってくるから。ちょっとそのまま行ってくるから」といって、自転車を預けていきました。

ところが、いつまでたってもおじいさんはもどってきません。そこで、自転車預かりの管理人のおじさんが、

「おかしいなあ。連絡してあげんといかんなあ」と思って、自転車を調べてみました。けれども、住所も名前も書いていません。荷台にだいを見たら、ふろしき包みがあったので、「ふろしきに何か書いてあるかもしれん」と思って見てみたけれど、何も書いていません。

「おかしいなあ。何が入ってるのかなあ」と思ってふろしきをほぐくと、箱が入っていました。箱にも何も書いていません。

「おかしいなあ。何が入ってるのかなあ」と思って箱のふたを開けてみました。すると中に、箱が入っていました。

「また箱だ」と思って、中から箱を出して見てみたけれど、やっぱり何も書いていません。

「おかしいなあ。何が入ってるのかなあ」と思って箱のふたを開けてみました。すると中に、箱が入っていました。

「また箱だ」と思って、中から箱を出して見てみたけれど、やっぱり何も書いていません。

「おかしいなあ。何が入ってるのかなあ」と思って箱のふたを開けてみました。

「また箱だ」と思ったたら、箱ではなくて、人間の首でした。

「うわあ、たいへんだ。殺人事件だ！」

おじさんは警察を呼んできて調べてもらいました。

頭を調べたら、きれいにはげているけれどちよつとだけ毛があるだけで、異常はありません。

目を調べたら、切れ長のきれいな目をしているけれど、ちよつとだけ目くそがついています。

鼻を調べたら、高い良い鼻をしているけれど、ちよつとだけ鼻くそがあります。

耳を調べたら、きれいな福耳ふくみみだけれど、ちよつとだけ耳くそがあります。
口を開けてみたら、歯がなかったそうです。
駅前の自転車預かりの歯なし。話。

おしまい

村上郁再話
聞き伝え